

尾瀬の植生

この地域の特徴的な地形的・地理的・気候的条件は、900 種以上の植物を擁するいくつかの生態系を生み出してきました。尾瀬は、北方系・南方系・太平洋型・日本海型という四つの異なる植生域が交わる場所にあります。

山林

尾瀬ヶ原を取り囲む山々は、大部分が落葉樹に覆われていますが、落葉樹の種類は生えている場所の標高と土壌に応じて異なります。例えば、黄味がかった白の樹皮を持つブナ（*Fagus crenata*）は鳩待峠近辺に大量に生えており、山ノ鼻に向かって下る道は、ミズナラ（*Quercus crispula*）の森を通っています。標高 1,600 メートル付近では、オオシラビソ（*Abies mariesii*）とオゼトウヒ（*Picea jezoensis* subsp. *hondoensis*）などの針葉樹がより豊富に見られます。

林床にはほとんど光が届きませんが、植物に関心の高い人はギンリョウソウ

（*Monotropastrum humile*）を見つけられるかもしれません。小さな白い花を咲かせるこの植物は、他の植物のように光合成を行わず、代わりに菌類から栄養を得ています。

至仏山は火山ではなく、大部分が蛇紋岩でできています。蛇紋岩という名称は、蛇の皮のような見た目にちなんで付けられました。蛇紋岩はマグネシウムと鉄を多く含むため、この岩は多くの種類の植物にとって生育の助けとなりません。至仏山でも育つ植物に、尾瀬にちなんで名付けられたオゼソウ（*Japonolirion osense*）があります。オゼソウはカトウハコベ（*Arenaria katoana*）やホソバヒナウスユキソウ（*Leontopodium fauriei* var. *angustifolium*）（写真参照）と共に、「蛇紋岩植物」と呼ばれています。

湿地植物

春と夏の間、湿原は花で覆われます。ミズバショウ（*Lysichiton camtschatcense*）が最初に姿を現し、5 月下旬から 6 月中旬にかけて湿原の多くの場所を白く覆います。しかし、白い花のように見えるものは、実際には仏炎苞と呼ばれる葉です。7 月中旬に明るい黄色がかったオレンジ色の花を咲かせるニッコウキスゲ（*Hemerocallis esculenta*）も、訪れる人々に根強い人気があります。Daylily という英語の名前が示唆する通り、ニッコウキスゲは一日しか

花が咲きません。茎に繊細な花をつけるイワショウブ (*Triantha japonica*) は、氷河期から生き残っている高山植物です。

尾瀬でよく見られるその他の植物には、スポンジのようにたくさんの水を蓄えるミズゴケ (bog moss) や、ワタスゲと呼ばれる cottonsedge (*Eriophorum vaginatum*) などがあります。

沼や小さな湖で育つ植物には、ヒツジグサ (*Nymphaea tetragona*) 、そしてハスに似た葉をもち黄色い花を咲かせるオゼコウホネ (*Nuphar pumilum* var. *ozeense*) があります。